



報道発表資料の配付日時 7月6日(火) 10時00分

発表項目 (行事名)	第43回「全日本中学生水の作文・北海道地方コンクール」入賞者の決定について		
記者レクチャー のお知らせ	(実施日時)	発表者	
		発表場所	
概要	<p>◆全日本中学生水の作文・北海道地方コンクール 全日本中学生水の作文コンクールは、「水の週間(8月1日から7日間)」の関連行事として、国が毎年実施しており、道としてもこのコンクールと連携して、昭和54年から北海道地方コンクールを実施し、今年で43回目となります。</p> <p>◆北海道地方コンクール受賞者 応募のあった185編の中から、最優秀賞(1編)、優秀賞(1編)、入選(5編)及び学校賞(3校)を決定し、北海道知事から賞状及び副賞を贈呈します。 なお、賞状及び副賞は発送済みで、個人賞(最優秀賞、優秀賞及び入選)の賞状及び副賞は所属中学校を通して伝達することとしております。</p> <p>◆全日本中学生水の作文コンクール中央審査 最優秀賞1編は、全日本中学生水の作文コンクール中央審査の対象として国土交通省に推薦しています。 なお、中央審査において受賞した際は、再度、受賞内容等を発表させていただきます。</p>		
参考	<p>◆北海道地方コンクールの概要・・・別紙1</p> <p>◆入賞者一覧・・・別紙2</p> <p>◆最優秀賞作品・・・別紙3</p>		
報道(取材)に当たってのお願い	<p>◆このコンクールは、北海道として、「水の週間」を広く啓発するための行事です。</p> <p>◆これからの北海道を担う若い世代に水の大切さや北海道の自然、世界の環境問題などを考えてもらう絶好の機会としてこのコンクールの存在や意義を広くアピールしたいと考えています。</p> <p>◆今回の入賞者の決定について積極的な報道をしていただきますようお願いいたします。</p>		
他のクラブとの関係	同時配付 同時レク	※道政記者クラブ、空知総合振興局記者クラブ、上川総合振興局記者クラブ、留萌振興局記者クラブ、オホーツク総合振興局記者クラブ	
担当 (連絡先)	総合政策部計画局土地水対策課課長補佐 福井 TEL ダイヤルイン 011-204-5135 (内線23-713)		

## 第43回「全日本中学生水の作文・北海道地方コンクール」の概要

## 1 目的

「水の週間（8月1日～7日）」の行事の一環として国が実施する「全日本中学生水の作文コンクール」と連携し、北海道においても次代を担う中学生を対象に「北海道地方コンクール」を実施し、広く水に対する関心を高め理解を深めることを目的とする。

## 2 応募要領

## 第43回「全日本中学生水の作文・北海道地方コンクール」応募要領

国民の間に広く健全な水循環の重要性についての理解と関心を深めるようにするため、水循環基本法（平成26年7月施行）第10条において、8月1日を「水の日」と定め、あわせて、国では、この日から一週間を「水の週間」とし、「全日本中学生水の作文コンクール」を実施するなど、毎年様々な行事を行っています。

北海道においても、この「全日本中学生水の作文コンクール」と連携し、次代を担う道内の中学生を対象として、「北海道地方コンクール」を次のとおり実施します。

なお、北海道地方コンクールの最優秀作文は、「全日本中学生水の作文コンクール」の中央審査に推薦します。

## 1 テーマ「水について考える」（題名は自由です。）

水は、地球上の全ての生命の源であり、特に私たちの生活の営みや農業・工業等にとって不可欠なものです。一方、水は、「恵み」の一面もあれば、豪雨や洪水、渇水などの「災い」という一面もあります。

また、私たちの暮らしは、水によって支えられていますが、地球上の水は無限ではありません。私たち一人一人が水循環の重要性を理解し、水との関わり方を学んで、水の恩恵を享受し続けるために、何をすべきか考えることが重要です。

あなたにとって、水とはどんなものですか？暮らしの中での体験や授業で学んだこと、調べたことをもとに、水についての考えを作文にまとめてみませんか？

## 2 主催・後援

主 催 水循環政策本部、国土交通省、北海道

後 援 北海道教育委員会、札幌市教育委員会、北海道中学校長会

3 応募資格 令和3年度（2021年度）に在学中の道内の中学生（中学生と同じ学齢の者を含む。）

4 原 稿 400字詰原稿用紙2枚以上4枚以内（800字～1,600字以内）で日本語により表記された個人作品に限ります。

5 応募期限 令和3年（2021年）5月7日（金）（当日消印有効）

6 応募方法 作文には、本文の前（原稿用紙枠内）に「題名」、「学校名（ふりがな）」、「学年」、「氏名（ふりがな）」を記入し、次の送付先に送付してください。  
なお、個別の題名は自由です。

7 送付先 〒060-8588 札幌市中央区北3条西6丁目  
北海道総合政策部政策局土地水対策課調整係（TEL 011-231-4111 内線23-741）

8 審査 5月に「北海道地方コンクール」の審査を行い、入賞作文を決定します。  
なお、最優秀賞作文は国土交通省が実施する「全日本中学生水の作文コンクール」中央審査に推薦します。

9 賞及び賞品 (1) 最優秀賞 1名（賞状及び副賞）  
(2) 優秀賞 1名（賞状及び副賞）  
(3) 入 選 3名程度（賞状及び副賞）  
(4) 学 校 賞 5校程度（賞状及び副賞）

10 賞の発表 賞は6月に発表し、所属中学校を通じてお知らせするとともに、賞状及び副賞を送付します。

11 使用権等 (1) 応募作品は自作の未発表のものに限ります。  
(2) 応募作品の使用権は主催者に帰属します。  
(3) 応募作品の返却は行いません。

## 12 その他

(1) 入賞者については、入賞作文の内容、学校名、学年及び氏名を国土交通省及び都道府県のホームページや作品集に掲載するほか、報道機関を含めた関係者へ提供しますので、予めご了承の上、ご応募ください。

(2) 本コンクールの応募作文に記載される個人情報、本コンクールの運営に必要な範囲内で利用します。

また、応募者の同意なく、本来の利用目的を越えて転用することはありません。

## 参 考

国土交通省が実施する中央審査の賞（予定）

（１）最優秀賞 内閣総理大臣賞 1名（賞状及び副賞）

（２）優 秀 賞 厚生労働大臣賞、農林水産大臣賞、経済産業大臣賞、国土交通大臣賞、環境大臣賞、  
水の週間実行委員会会長賞、独立行政法人水資源機構理事長賞、全日本中学校長会会長賞 各 1名  
中央審査会特別賞（賞状及び副賞）

（３）入 選 30名程度（賞状及び副賞）

（４）佳 作 上記受賞者を除く全員（記念品）

※ 最優秀賞、優秀賞受賞者の表彰は8月頃に東京都内で行われます。

## 第43回「全日本中学生水の作文・北海道地方コンクール」入賞者一覧

## 最優秀賞

作品名	氏名	学校名及び学年
「水の循環」を支える森林	渡邊 楓	留萌市立港南中学校 2年

(敬称略)

## 優秀賞

作品名	氏名	学校名及び学年
小さなきっかけから水を大事に	岡部 絵菜子	当麻町立当麻中学校 3年

(敬称略)

## 入選

作品名	氏名	学校名及び学年
水に込められた思い	北 友那	長沼町立長沼中学校 2年
大好きな水を守るために	クロス マヤ	長沼町立長沼中学校 3年
水を繋ぐ	谷 和珠	長沼町立長沼中学校 3年
「水と共に生きる」	堀山 直浩	札幌市立向陵中学校 2年
美しい自然が生まれる未来	松江 洋太	北見市立東陵中学校 2年

(敬称略、五十音順)

## 学校賞

学校名	備考
岩見沢市立北村中学校	
学校法人札幌日本大学学園札幌日本大学中学校	北広島市
当麻町立当麻中学校	

(敬称略、五十音順)

## 「水の循環」を支える森林

留萌市立港南中学校 二年 渡邊 楓

「水の循環」という言葉は、きっと皆さんも知っている、有名なものだと思う。

この「水の循環」の流れの最初に、「山に雨が降る」というものがある。

山に雨が降ると、その水は川に流れる。それが一気に行われるのであれば、川の水かさは増し、洪水が起きてしまうかもしれない。でも、雨が降るたびに洪水が起きることはない。それはなぜなのだろう。

その理由の一つに、「緑のダム」の働きがある。小学生の時、理科の時間に習ったことを思い出ししてみると、「緑のダム」というのは、水を貯めたり放流したりできる、ダムのような働きをする森林のことだ。

ダムは、大雨が降った時に川の水量を調節するのに役立つが、人工のダムの場合は、ダムを建設することによって環境を破壊してしまうことがある。それに対して「緑のダム」は、森林に生えている木がもともと持っている、水を蓄える働きで川の水量が増え過ぎるのを抑えてくれるので、人工のダムよりも能力は劣るが、環境を壊すことがない、まさに「天然のダム」だ。

そんな「緑のダム」は、まず、木がないとその力は発揮されない。木がない＝「緑のダム」の働きができない＝つまり、水を蓄えることができないのだ。人工のダムがある所なら、水が0になることはないと思うが、面積の小さい「島」ならどうだろうか。実際に、昔、森林がなくなって水不足になってしまった島がある。

それは「天売島」だ。

「天売島」は、私が住んでいる、北海道留萌管内の沖合に浮かぶ、人と海鳥が共生している貴重な島だ。かつて、島の森の多くが消滅してしまった時期があると知って驚いた。今の島には木がたくさん生えているからだ。

調べてみると、ニシン漁が盛んだった時代に、肥料として出荷する「ニシン粕」をつくるために薪が必要だったため、森林の伐採が進んでしまったらしい。すると、森林が少なくなって「ハゲ山」が目立つようになってしまった。そればかりか、水を蓄える「緑のダム」の役割を担う木がなくなったせいで、島が水不足になってしまった。自分たちが生きていくために木をたくさん切ったら、今度は、生きていくために必要な水がなくなってしまった。木もなく、水も十分でない、まるで砂漠のような状態になってしまったのだ。

困った人々は、一生懸命に木を植え、島の厳しい自然環境に負けないで木を増やして、水不足を解消したが、それには何十年もの長い年月がかかった。（参考：ミツカン 水の文化センター ホームページ）

この、天売島での出来事でわかることは、「水と森は密接に関わっている」ということ。雨が降らないと森林は育たないし、森林がないと水が十分に手に入らない。つまり、水と森林は、切っても切れない関係なのだ。この、自然にとって大切な関係を保っていくためには、自然から水を分けてもらっている私たち人間が、森林を手入れし、水を使いすぎないように心がけることが大切だと思う。それに加えて、醤油などの調味料や洗剤を直接排水口に流さないことも大事だ。例えば、天ぷらに使われる油。それを大きじ一杯そのまま捨てたとして、油をうすめて処理するには、お風呂の浴そう二二・五杯分、四千五百リットルもの水が必要になる。油をうすめる分の水も無駄になってしまうし、そのまま川に流れると、自然や生き物に悪影響を与えてしまう。だからこそ、私たちが、洗い物のときに洗剤を使いすぎないように気をつけたり、油のついた食器を洗う前に油を拭き取っておくことで、水にも自然にも負荷をかけないようにしたい。

皆さんにも、ぜひ森林の働きを理解してもらい、水も森林も大切にしてほしいと思う。